

= Ruby

```
: subtitle
  Reference Manual\n2016 Autumn
: author
  okkez
: content-source
  RubyKaigi 2016
: date
  2016/09/09
: allotted-time
  30m
: theme
  .
```

= Who?

```
* okkez (pronounce: okki:)
* Working in ClearCode, Inc.
* I have 3 years old daughter
* 3 years since last report
```

== Note

- まず簡単に自己紹介させてください
- okkez と書いて「おっきー」と読みます(発音記号は適当です)
- クリアコードという会社で働いています
- 3才の娘がいますが、今回は来ていません
- RubyKaigi2013 以来3年振りに「るりま」について話します

= Silver sponsor

```
# image
# src = silver-sponsor.png
# relative-height = 100
```

== Note

- クリアコードは Silver sponsor をやってます
- 今回の旅費やホテル代も出してもらいました

= る(((*り*))ま\n!=\nる(((*び*))ま

== Note

- ここから4枚だけスライドが日本語です。すみません。
- たまに「るりま」と「るびま」を勘違いしている人がいるので違いを確認しておきます

= る(((*り*))ま

```
* (((*Ru*))by (((*Re*))ference (((*Ma*))nual
* (((*る*))びー(((*り*))ふあれんす(((*ま*))にゅある
```

== Note

- 「るりま」は Ruby リファレンスマニュアルのことです

= る(((*り*))ま

```
# image
# src = rurema.png
# relative-height = 100
```

== Note

- 「るりま」はこんな感じのサイトです

= る(((*び*))ま

```
* ((*Ruby*))ist ((*Ma*))gazine
* ((*るび*))ーすと((*ま*))がじん
```

== Note

- 「るびま」は RubyistMagazine というウェブ雑誌のことです

= る(((*び*))ま

```
# image
# src = rubima.png
# relative-height = 100
```

== Note

- 「るびま」はこんな感じのサイトです

= る(((*り*))ま\n!=\nる(((*び*))ま

== Note

- 「るりま」と「るびま」はどちらも日本 Ruby の会のサポートを受けて活動しています
- ここにいるような人は大丈夫だと思いますが、もし身近に間違えている人がいたらそっと訂正してあげてください

= History

```
* (('tag:x-small:2006-08-27')) Start Project
* (('tag:x-small:2009-01-31')) Ruby1.9.1 is released
* (('tag:x-small:2010-08-18')) Ruby1.9.2 is released
* (('tag:x-small:2011-09-01')) Start maintenance
```

== Note

- では、歴史を簡単にふりかえります
- 2006-08-27 に青木さんの号令でプロジェクトが始まりました。なんと今年 10 周年だったんですね。
- 当初は「Ruby リファレンスマニュアル刷新計画」というカッコいい名前でした。
- プロジェクトのゴールは「このプロジェクトの目標は、Ruby 1.8.7 or 1.9.1 のリリースとともに、完全なリファレンスマニュアルをリリースすること」でした。
- ちなみに 2006-08-25 に Ruby1.8.5 がリリースされていました。あと 2006-12-22 あたりに Ruby のリポジトリが SVN に移行していました
- (第 1 段階の旧リファレンスからのフォーマット変換は 2 ヶ月)(第 2 段階のクラス・モジュール・メソッドのリストアップは 3 ヶ月)
- 最低限のドキュメントを書くのに約 5 年かかりました

- 2011-09-01 以降はメンテナンスフェイズになったのでまったりとやっています

= History

```
* (('tag:x-small:2011-10-31')) Ruby1.9.3 is released
* (('tag:x-small:2013-02-24')) Ruby2.0.0 is released
* (('wait'))(('tag:x-small:2013-05-30')) Last report
```

== Note

- 2011-10-31 に Ruby1.9.3 がリリースされました
- 2013-02-24 に Ruby2.0.0 がリリースされました <Enter>
- 2013-05-30 に RubyKaigi2013 で発表しました
- (bitclust, doctree) UTF-8 移行, コード整理, サブコマンド追加, ライブラリをカテゴライズ, プログレスバー
- (\$ git log --oneline --since 2011-09-01 --until 2013-05-30 --reverse | wc -l) (836) (平均すると1.3commit/dayくらい)

= Since RubyKaigi2013

```
* (('tag:x-small:2013-06-02')) Move to GitHub
* (('wait'))(('tag:x-small:2013-12-25')) Ruby2.1.0 is released
* (('wait'))(('tag:x-small:2014-12-25')) Ruby2.2.0 is released
* (('wait'))(('tag:x-small:2015-12-25')) Ruby2.3.0 is released
```

== Note

- RubyKaigi2013 以降にあった出来事をふりかえります
- 2013-06-02 にリポジトリを GitHub に移行しました。この日は RubyHiroba というイベントがあってその場で行った「るりま会議」の中で移行しました。
- 独自に svn リポジトリを管理するのが辛くなったのと Pull Request や issue を広く受け入れられるようにするためです
- マージ作業はマージボタンを押すだけなので、楽になりました <Enter>
- 毎年 Ruby の新しいバージョンがリリースされるごとに有志で対応作業を続けています <Enter> 5sec <Enter>
- (\$ git log --oneline --since 2013-05-31 --reverse | wc -l) (909) (平均すると0.8commit/dayくらい)
- bitclust, doctree 高速化, RDoc へのリンク, EPUB 作りかけ, リストの入れ子サポート, その時々でサポートしている Ruby バージョンの整理

= Since RubyKaigi2013

```
* docs.ruby-lang.org
* Provided by IIJ
* Managed by @hsbt
* Follow Ruby updates
* (('wait'))(*by hand...*)
```

== Note

- docs.ruby-lang.org のサーバーを専用の VPS に移行しました

- 以前は別のサーバーと同居していて、リソース的に辛いところがありましたが楽になりました
- この VPS は IIJ さんが提供してくれました。管理は hsbt さんがやってくれています
- Ruby 本体の更新に対するるりまの追従については職人の手作業で行なっています
- と言いたいところですが実際のところは、気付くことができればやるという感じなので更新の追従はほとんどできていない気がします
- がんばらなくてもやれる方法を考えたい

= Since RubyKaigi2013

```
* Related to RDoc
* Sync ((*Not yet*))
* Link to RDoc ((*Implemented*))
```

== Note

- この発表での RDoc とは、Ruby のソースコードに埋め込まれた英語のドキュメントのことをいいます
- RDoc 関連のトピックです
- RDoc との更新の同期はまだできていません
- るりまから RDoc へのリンクは実装済みです。2013 年のインターンシップでクリアコードに来てくれた学生さんに実装してもらいました。

= Recent updates

```
* Add canonical
* Add NEWS
* Fix (('tag:small:open_search_description.xml'))
```

== Note

- 最近の更新を紹介します
- ここ数ヶ月以内だと canonical を追加したり Ruby の NEWS を一部読めるようにしました
- open_search_description.xml の中身が壊れていたのを修正しました
- この件は Github の issue に報告があって初めて気付いたので、直すことができました
- 関係者にきちんと届くところで声を上げることが大事です

= Contributors (('tag:small:rurema/bitclust'))

```
# image
# src = contributors-bitclust.png
# relative-height = 120
```

== Note

- BitClust のリポジトリからわかる貢献してくれた人の一覧です
- BitClust はるりまのためのツール/ライブラリです
- GitHub 上では 18 人 (contributors から取得できた人数)
- Git リポジトリ上では約 20 の方が貢献してくれました

```
$ git log --oneline --format=%aN | sort -u | wc -l
```

```
= Contributors (('tag:small:rurema/doctree'))
```

```
# image
# src = contributors-doctree.png
# relative-height = 100
```

```
== Note
```

- るりまのリポジトリからわかる貢献してくれた人の一覧です
- GitHub 上では 59 人 (contributors から取得できた人数)
- Git リポジトリから読み取れる記録によると延べ 82 人の方が貢献してくれました

```
$ git log --oneline --format=%aN | sort -u | wc -l
83
```

- 実際には bugs.ruby-lang.org に issue やパッチを報告してくれた人や github に移行してから issue を報告してくれた人もいるのももう少し多いはずです。

- bitclust と合わせると延べ 100 人以上の人が協力してくれています。

```
= From now on...
```

```
* Write docs for Ruby2.4.0
* Develop tools
* Automation
* Related to RDoc
```

```
== Note
```

- これからやりたいことについて話します
- これからやりたいことは、大きく分けて 4 つあります
- 順番に見ていきます

```
= From now on...
```

```
* ((*Write docs for Ruby2.4.0*))
* Develop tools
* Automation
* Related to RDoc
```

```
== Note
```

- Ruby2.4.0 対応についてです

```
= Write docs for Ruby2.4.0
```

```
* 2016-12-25 release?
* (('tag:small:Unify Fixnum and Bignum to Integer'))
* Increase bundled gem
* Not so many
```

```
== Note
```

- こないだの LLoT の発表資料によると Ruby2.4.0 は 2016-12-25 リリース予定らしいです
- Ruby2.4.0 がリリースされたらなるべく早く対応したい

- bundled gem が増えるので書かなくてもいいドキュメントが増える予定です
- 特に tk が bundled gem になったのは大きいと思います。ASSIGN.low の 80% が tk 関連。
- 今のところわかっている変更点を見る限りそんなに多くないので問題なく対応できそうです

= From now on...

- * Write docs for Ruby2.4.0
- * ((*Develop tools*))
- * Automation
- * Related to RDoc

== Note

- ツールの開発について話します

= Develop tools

- * Stop using CHM
- * chm subcommand is broken
- * Generate EPUB, PDF?
- * etc.

== Note

- chm を作るためのサブコマンドが壊れているし、CHM 自体が非推奨になっているので CHM をやめたい
- CHM のかわりに PDF や EPUB を生成したい
- EPUB は作りかけ。時間を作って完成させたい。
- PDF は EPUB からの変換でやれると楽でよさそう。

= From now on...

- * Write docs for Ruby2.4.0
- * Develop tools
- * ((*Automation*))
- * Related to RDoc

== Note

- 自動化については、

= Automation

- * Notify updates
- * Release new package
- * Improve CI mechanism
- * etc.

== Note

- Ruby の本体や RDoc が更新されたらりまの更新要否を検出して通知したい
- 新しいパッケージのリリースを自動化したい
- CI の仕組みをもっとよくしたい。CI に成功したら見た目を確認できるようにしたい。
- (CHM やめたい)

= From now on...

```
* Write docs for Ruby2.4.0
* Develop tools
* Automation
* ((*Related to RDoc*))
```

== Note

- RDoc 関係について話します
- ここで言う RDoc とは、Ruby のソースに埋め込まれた英語で書かれているドキュメントのことを指します

= Related to RDoc

```
* Sync
* English <-> Japanese
* Use i18n module
* Detect updates
```

== Note

- RDoc 関連のやりたいこともあります。
- 英語のドキュメントの良い内容を日本語側に取り込んだり、
- 日本語のドキュメントの良い内容を英語のドキュメントに取り込んでもらったりして
- 双方向に良くしていけるのが理想です。
- RDoc i18n を活用した更新への追従について調べたいですが、
- そもそも RDoc i18n についてわかってないので RDoc i18n を活用することで Ruby 本体の更新への追従ができるかどうか不明。。。

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/doctree'))

```
* Use! (('note:http://docs.ruby-lang.org/ja/'))
* Report issues
* Create Pull requests
* Write Japanese documents
* Fix a typo
```

== Note

- どのようにして貢献すればよいのか説明します

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/doctree'))

```
* ((*Use!*)) (('note:http://docs.ruby-lang.org/ja/'))
* Report issues
* Create Pull requests
* Write Japanese documents
* Fix a typo
```

== Note

- るりまを使ってください docs.ruby-lang.org/ja/
- BitClust と ReFe2 を使ってください

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/doctree'))

```
* Use! (('note:http://docs.ruby-lang.org/ja/'))
```

```
* ((*Report issues*))
* Create Pull requests
* Write Japanese documents
* Fix a typo
```

== Note

- 使っていて気付いたことがあったら issue 立ててください
- twitter とかブログとかで愚痴ってもほとんど気付けません
- 関係者に確実に届くところで声を上げるのが大事です

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/doctree'))

```
* Use! (('note:http://docs.ruby-lang.org/ja/'))
* Report issues
* ((*Create Pull requests*))
* Write Japanese documents
* Fix a typo
```

== Note

- もし、直せそうだったら Pull request をしてみてください
- タイポの修正だけでも大丈夫!
- RD ベースの独自記法ですが、小さな修正なら文法のことを知らなくても簡単にできます
- 記法がわからなければ、「こういう風に直すといいのでは?」というのを issue に書くと誰かが反応します
- CI しているので、ビルドの確認もしなくて大丈夫です。

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/bitclust'))

```
* Develop BitClust
* Generate EPUB, PDF
* Notify updates
* SEO (('note:Search Engine Optimization'))?
```

== Note

- BitClust の開発で助けが必要なことを話します

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/bitclust'))

```
* Develop BitClust
* ((*Generate EPUB, PDF*))
* Notify updates
* SEO (('note:Search Engine Optimization'))?
```

== Note

- EPUB, PDF 生成。
- Rails Guide の翻訳をやっている安川さんに Re:VIEW 経由でやるのがいいんじゃない、と言われた
- ので、作りかけの実装は捨ててその方向で検討してみる予定です

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/bitclust'))

```
* Develop BitClust
* Generate EPUB, PDF
```



```
* ((*Notify updates*))
* SEO (('note:Search Engine Optimization'))?
```

== Note

- Ruby 本体の更新を検知してドキュメントの修正が必要なことを楽に知りたい

= Contribute! (('tag:x-small:rurema/bitclust'))

```
* Develop BitClust
* Generate EPUB, PDF
* Notify updates
* ((*SEO*)) (('note:Search Engine Optimization'))?
```

== Note

- 最近, twitter でるりまについて検索したら SEO で古いドキュメントを公開しているサイトに負けてて辛いという話を偶然見かけました
- 実際に適当なキーワードで検索すると、古いドキュメントを公開しているサイトがヒットしました
- SEO については、最近 canonical を足したくらいでほとんど何もしていません
- SEO については知識が無いので、自分が手を付けるとしたら一番最後になりそうです
- 普通の SEO とはちょっと違う気がしているので、いい方法があれば教えて欲しいです

= See also

```
* (<"rurema/bitclust issues"|URL:https://github.com/rurema/bitclust/issues>))
* (<"rurema/doctree issues"|URL:https://github.com/rurema/doctree/issues>))
```

= Keep\nImproving\nRuby\nDocumentation

== Note

一緒に Ruby のドキュメントをよくしていきましょう!!

```
# = English documentation
#
# * http://documenting-ruby.org/
# * @drbian, @zzak, @practicingruby, @steveklabnik
# * about 75% documented
#
# == Note
#
# - http://documenting-ruby.org/ で活動している
#
# - 4 人中心となっている人がいて少なくともそのうち 2 人は Ruby のコミッター
#
# - 英語の Ruby 本体と完全に同期して進められている
#
# - サイトによると約 75% のドキュメントが書けているらしいです
```

= Question?

= Info from ClearCode, Inc

: OSS 開発支援サービス
OSS 開発での困り事、相談乗ります
: エンジニア募集中
パッチ採用による通年採用

== Note

- クリアコードではエンジニアをN名募集しています
- パッチ採用という方法で、面接やペアプロのかわりにします
- パッチ採用については、インターネットで検索してください。

- 同時にインターンも募集しています。

#

- 三ヶ月を一区切りとした期間でクリアコードメンバーと一緒にフリーソフトウェアの開発を実際に体験してもらいます。

#

- インターンで開発するフリーソフトウェアはいくつかあり、そのうちの一つにまで使われている BitClust の開発もあります。

#

- ちなみにインターンは学生・社会人を問わず募集しています。

#

- <http://www.clear-code.com/recruitment/>, <http://www.clear-code.com/internship/>

- 興味のある方は、声をかけてください。

= 第74回 Ruby 関西 勉強会

- * 日時: (('tag:small:2016-09-11(日) 13:00-17:00'))
- * 場所: 京都女子大学 C508
- * 内容: LT 大会
- * 申込: (('tag:small:rubykansai.doorkeeper.jp'))
- * 懇親会もあるよ